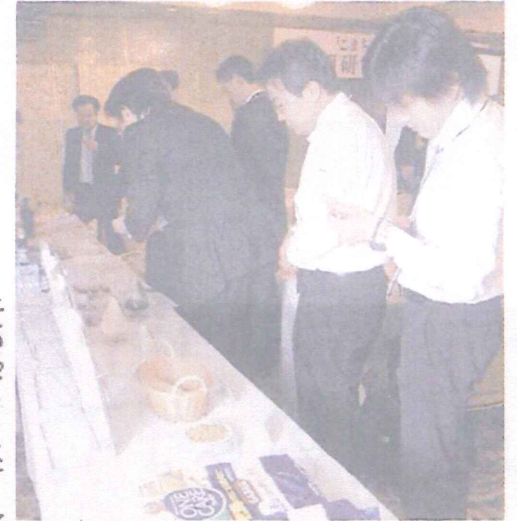


湯沢でGABA研究会
**ドッグフードなど
 商品担当者が発表**



ギャバを使ったドッグフードなどが紹介された研修会

ているアイリスオーヤマ(仙台市)のペット事業部商品開発リーダー・佐藤陽子さんが事例発表した。

佐藤さんは「高付加価値のペットフードの需要が高まっていることから、健康によいとされるギャバを配合したドッグフードを企画した」と説明。3週間のモニター使用の結果、犬の体重が減少した例もあったと報告した。

このほか、県総合食品研究所の島恵司主任研究員が講演。これまでの研究結果を説明し「秋田銘醸のギャバ素材は、動物の脂質代謝を正常化させるなど、肥満防止に役立つ機能を持つ」と話した。会場では、ドッグフードや同社のギャバ素材を使った食パンなども展示され、出席者が興味深そうに手に取っていた。

(三浦ちひろ)

アミノ酸の一種であるギャバを使った商品開発などを進めている企業や行政、研究機関で組織する「こまちGABA研究会」は23日、湯沢市の湯沢ロイヤルホテルで利用研究成果研修会を開いた。企業の担当者らが、ギャバを使ったドッグフードなど、開発事業の成果を発表した。

同研究会に参加する秋田銘醸(同市)は、県総合食品研究所と共同で米ぬかからギャバを生産する技術を開発し、2003年にギャバを含む液体の食品素材を商品化。07、08年度には、経済産業省の地域資源活用型研究開発事業の採択を受け、粉末のギャバ素材開発を進めてきた。

研修会では、同社の粉末ギャバ素材を使ったドッグフードを商品化、先月から販売し

秋田鬼斗新聞
 3/24日付